

ねりまの文化財

文化財を火災から守ろう！ 1月26日は文化財防火デー

1月26日は第51回文化財防火デーです。

昭和24年1月26日、世界最古の木造建築物である法隆寺金堂で失火があり千三百年の歴史を持ち世界の至宝といわれた白鳳時代の壁画の大半が焼失しました。また、翌年には金閣寺が火災に遭うなど文化財の焼損が相次ぎました。そこで、消防庁と文化庁では、文化財を火災や震災その他の災害から保護するとともに、文化財愛護思想の普及高揚を図ることを目的として、昭和30年にこの日を「文化財防火デー」と定め、以来この日を中心として全国的に文化財防火運動を展開しています。

紙の可燃物であり、その火災原因が放火や周囲からの飛び火によるものが多いという特徴を考え合わせると、常に火災の危険にさらされていると思わなければなりません。

最近では、平成12年5月に寂光院において、重要文化財の木造地藏菩薩立像が焼損し、平成14年12月には、北海道で埋蔵文化財調査団事務所が全焼し、世界最古の漆の副葬品などが焼損しています。

文化財は貴重な国民的財産であり、それを火災から守るためには、関係者による防災設備の整備、訓練だけではなく、地域住民の皆様の協力も必要です。

練馬区内でも、文化財を保管して

いる寺社の協力のもと、所轄三消防署や消防団による防火演習が行われます。通報から始まり、面体マスク、圧縮ボンベ着用隊員による非難誘導、逃げ遅れた人の救助、文化財の搬出、一斉放水等、迫真の演習内容です。自由に見学できますので、是非お越しください。

なお、時間と場所については、ねりま区報1月21日号をご覧ください。

※問い合わせ先

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
☎3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1



水川神社

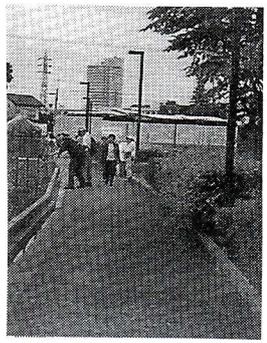
練馬区教育委員会 文化財係

田柄用水 歴史散策のご案内

田柄用水は、江戸時代に玉川上水から引かれた田無用水を西東京市田無町付近で分水し、練馬区を横断して板橋区の桜川橋で石神井川に注いでいます。全長約17km。田柄用水は、田無村、上保谷村、関村、谷原村、田中村、上・下石神井村、下土支田村、上・下練馬村の連名で、田畑開墾のために田無用水から分水する願書が提出され(小島家文書、明治4年)なって開削されました。現在、用水のほとんどが暗渠になっていますが、唯一石神井台八―二一のけやき憩いの森内に当時の姿が残され、区の登録史跡になっています。

平成15年度に用水調査を区民ボランティアと行いその実態が明らかになりました。今回は調査に携わった区民講師の案内で、3月17日に田柄用水を歩きます。是非、ご参加ください。

(詳細は、ねりま区報3月1日号をご覧ください。)



中村南遺跡の発掘調査

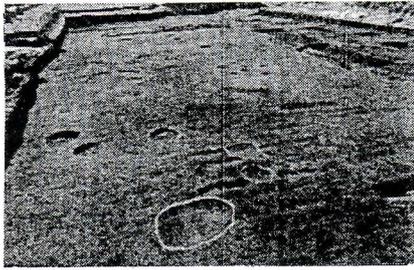
旧石器時代〜縄文時代の集落遺跡である中村南遺跡の発掘調査を実施しました。調査は文化財保護法に基づき、中村南 1-2 の「(仮)豊玉・中村地域交流センター」建設に先立ち、



集石の調査

約 3 千 5 百 m² を 9 月 から 12 月 に行いました。その結果、5 千年程前の縄文時代中期の竪穴住居跡や石蒸し調理の跡とされる集石(しゅうせき)などが発見され、7 千点を超える土器や石器が出土しました。

遺跡は、神田川水系にあたる中新井川(江古田川ともいう)の最も上流にある遺跡で、学田公園の低地を東に望む標高約 40 m の微かに高くなっている台地上にあります。竪穴住居跡は高台の縁に沿っ



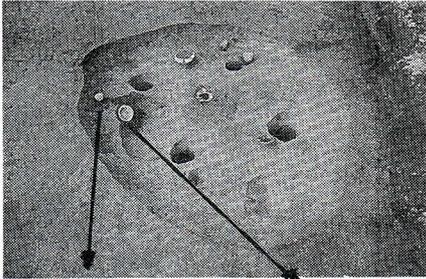
【北から発掘現場を望む】

手前、中央付近の丸い穴が竪穴住居跡、小さい穴は集石跡

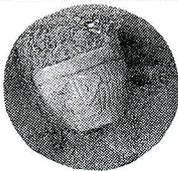
て 7 軒が発見されています。住居跡のほぼ中央には炉があり、そこに縄文土器が埋めてありました(埋甕(まいよう)。武蔵野台地で発見されている縄文時代中期中葉の典型的な竪穴住居構造をしていました。

特に 5 号住居跡からは、ほぼ完全な形の縄文土器が数点出土しました。住居跡は平面が円形で直径約 5 m、4 本の柱穴があり、中央に炉と埋甕がありました。

この住居の壁際近くで 5 点の土器が床面に置かれ、または外側から転がり落ちたような状況で出土しました。中期の勝坂式(かつさかしき)土器と呼ばれる特徴をもつ文様の土器です。円筒形、深鉢形、浅鉢形が出土し、浅鉢形土器の一つには 4 箇所透かし孔がある台がついた珍しい形のものがありました。



深鉢形土器



台付浅鉢形土器

出土した土器などの記録は報告書として刊行する予定です。

国登録文化財

青柳家住宅主屋

羽沢一丁目建つ、「青柳家住宅主屋」が前号でお知らせしたとおり、国の文化審議会の答申に基づき 11 月 29 日に国の文化財建造物として告示され、国の登録文化財となりました。

国の文化財登録制度は、文化財保護法に基づき、従来の指定文化財よりも緩い規制で、文化財を活用しながら保存していくことを目的としたものです。

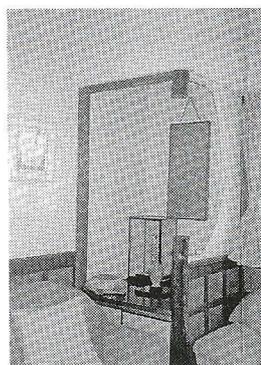
青柳家住宅も現に住まいとして使用しており、所有者が長く保存していきたいという意思に基づいて登録となりました。「青柳家住宅主屋」は昭和 3 年(1928)に建築された木造平屋建て、スペイン瓦葺きの建物です。江古田駅の本格営業(大正 12 年)により、学校の移転や郊外住宅地として開発された地域にあります。



昭和初期開発の私鉄沿線の住宅で「国土の歴史的景観に寄与するもの」として登録価値が認められています。

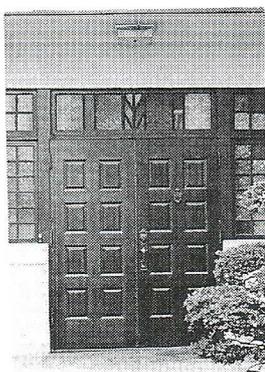
められています。

建物は昭和初期の郊外住宅としての特徴が随所に見られます。内部は道路に北面する中央に玄関、東側に洋風な応接間、玄関と引き違い戸で仕切る 3 畳間、その奥に 6 畳間があり、その部屋を中心に 8 畳座敷や台所を配した簡明な平面です。正面外観は低い屋根の破風を二枚にして全体を軽く見せ、壁面の意匠と合わせて、



応接間飾り棚

水平線を強調するものとなっています。玄関周りは小さなガラスを細い棧にはめ、四角と V 字形の意匠を組み合わせたものとなっています。旧帝国ホテルなどを設計したフランク・ロイド・ライトの建築意匠を取り入れた建物となっています。



玄関周りの意匠

現在もお住まいになっている個人の住宅ですので、内部の見学はできません。道路からの見学となります。

郷土資料室 特別展

鉄道の開通と沿線の風景

本年 4 月で練馬に武蔵野鉄道（現西武池袋線）が開通して 90 年になります。大正 4 年（1915）4 月に開通した武蔵野鉄道は、当時農村であった沿線の風景を大きく変化させました。

鉄道の開通により沿線の宅地化が進みました。特に大泉学園の宅地開発は、予定どおりにはいきませんでした。先駆的なものとして注目されます。また、沿線に設立された豊島園や公園として整備された石神井公園には、鉄道を利用して多くの人が訪れるようになりました。今回の展示会では、鉄道の開通が練馬区域に与えた影響について、いろいろな資料から紹介します。ぜひ、お越しください。

○会場 練馬区郷土資料室

石神井台 1・16・31

TEL 03・3996・0563

○日時 3月12日(土)～5月10日(火)
※月曜日、3月25日(金)、4月22日(金)、5月4日(水)は休室。

○開室時間 午前9時～午後5時

○学芸員による展示解説

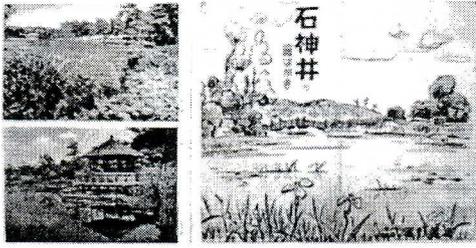
① 3月20日(祝・日) 午前11時

② 5月1日(日) 午後2時

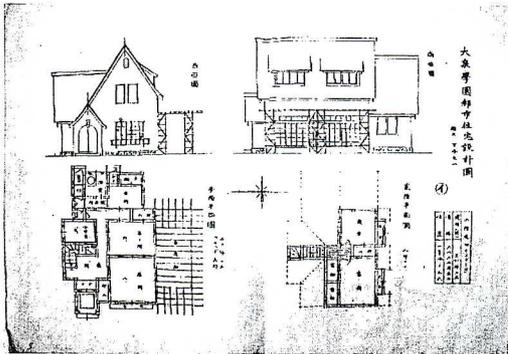
※各回約30分、直接会場においでください。

○講演会 老川慶喜氏（立教大学教授・鉄道史学会会長）

（※詳しくは、ねりま区報3月11日号をご覧ください。）



石神井絵はがき
昭和 10 年 (1935) 頃



大泉学園都市住宅設計図
大正 14 年 (1925)

区民ボランティアが企画・運営した

「わがまち再発見 ねりまの文化財めぐり」

前号で紹介した 38 名の区民ボランティアによる「わがまち再発見 ねりまの文化財めぐり」が昨年の 11 月 4・11・18・25 日の 4 日間にかけて実施され、延べ 217 名の参加者が文化財めぐりを満喫しました。

この「わがまち再発見 ねりまの文化財めぐり」は、史跡散歩の企画、運営ボランティアの養成を目的として開催している文化財講座『史跡散歩を楽しもう』のまとめとして行われたものです。

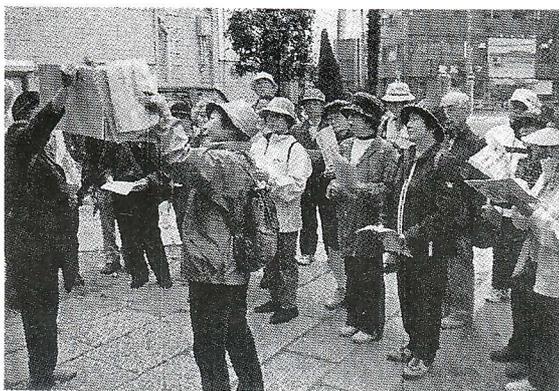
昨年 6 月 10 日に始まったこの講座は、区内を四地域に分割して各地域単位に班を作るところからスタートし、以降、史跡散歩の体験学習やコース作りの方法・資料の作成方法等を学びながら、コース設定・各文化財の調査・研究を重ねてきました。

コース設定に際しては、①3 時間以内
②集合・解散地点が交通便利
③参加者の安全確保が図られること等の課題が与えられ、
・あれもこれもまわりたい
・ここではこの説明もしたいけど
・この道は思いのほか危険だね
等々、さまざまな議論を班の中で積み重ね、何度も実踏を繰り返してようやく決定されました。参加者に配布する資料の

作成も同様で、ボランティアの皆さんを悩ましたようです。なんと言っても最大の緊張は散歩当日。人前で解説するのが始めてだという方もおり、朝から緊張が見え隠れしていました。

結果として、各班ともに大成功のうちを終えることができました。参加者からは、『とっても良かった』『私も次からボランティアとして参加したい』等々の感想が多数寄せられました。

この講座は、今年も継続して行います。今号から各班で作成したコースを順次紹介しますので、是非歩いてみてください。



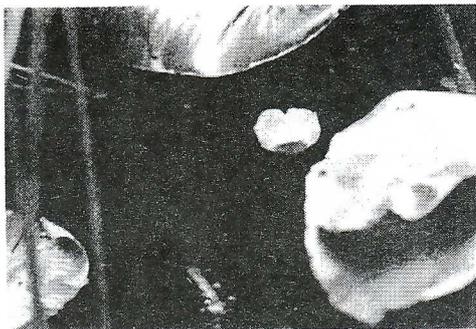
解説するボランティアの方々

区民ボランティアが企画・運営した史跡散歩① 「石神井の自然と周辺史跡探訪」を歩く

今回のコースの距離は約4km、時間にして約3時間です。まず、石神井公園駅南口を出て、バス停沿いに歩くと大きなイチョウの木が目にとまります。その傍に「石神井火車站之碑」(地図①)があります。この碑は、西武鉄道前身の武蔵野鉄道が開通し、駅が出来たお祝いに地元の人々が建立した記念碑です。この碑から南に450mほど行くと「稲荷神社」(地図②)があります。別名「伝五郎稲荷」とも「和田稲荷」ともいわれ、この地区の鎮守で、区内最大級のシラカシがあります。

「稲荷神社」の正面の坂を下ると、石神井公園に到着します。「石神井池(ホト池)」(地図③)は人工池で、昭和9年8月、観光のため開発され、賑わいました。「石神井池」の南側にある「記念庭園」(地図④)は、大正5年に出来た「第二豊田園」の跡です。当時園内には池や東屋があり、ツツジ・モミジ・アヤメなどが植えられた観光スポットでした。現在も「ねりまの名木百選」のコブシやタブノキ(地図⑤)などがあります。

「記念庭園」を出て「石神井池」に沿って南側を400mほど歩くと、「区立池淵史跡公園」(地図⑥)です。三宝寺池と石



コウホネの花 (三宝寺池)

神井川にはさまれた台地上にひろがる池淵遺跡(旧石器時代と縄文時代が中心)の一部を史跡公園として整備したものです。

「三宝寺池」(地図⑦)は井草通り(バス通り)を挟んだすぐ西側。「新編武蔵風土記稿」などにも登場する古くからの湧水池です。中の島の周囲の植物は、昭和10年に「三宝寺池沼沢植物群落」として国の天然記念物に指定され、ミツカシワ・シヤクジイタヌキモなどが保存の対象になりました。しかし、周辺地域の急激な都市化に伴い、現在では井戸を掘り地下水を汲み上げて、湧水量の不足を補っています。また、「水辺観察園」は湿性植物を守り再現するため平成元年に作られたも

のです。ここには、かつて100mプールがあり、オリンピックの選手も練習した所です。戦後は釣堀として存在し、ご記憶のある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「水辺観察園」の前の木道を歩きながら池の周りを歩き、北の急斜面を登ると、うっそうとした木々のなかに「殿塚」と「姫塚」(地図⑧)があります。豊島泰経・照姫の塚伝説や三宝寺池に沈んだ金の鞍伝説があります。

再び池沿いの木道を池の南側に進むと「厳島神社」(地図⑨)があり、向かい側には「穴弁天社」と呼ばれる洞穴の祠があります。

「厳島神社」を過ぎて、池の南側斜面を登ると「石神井城跡」(地図⑩)の空堀と主郭跡に着きます。林の中、現在も土塁と堀が良く残されています。石神井城は、鎌倉時代から室町時代にかけて東京の北東部に勢力を持った豊島氏の城で、文明9年(一四七七)に太田道灌によって攻め落とされた城です。

石神井城跡の東側に「水川神社」(地図⑪)があります。石神井郷の総鎮守であり、境内には「豊島氏奉納の石灯籠(区指定文化財)」や「水盤(区登録文化財)」があります。

「水川神社」の参道を出て、旧早稲田通りを西に300mほど進むと「三宝寺」(地図⑫)に着きます。ここでは延宝3年(一

六七五)作「梵鐘(区指定文化財)」や徳川家光が狩猟の際立ち寄ったことから「御成門」と呼ばれている「山門(区登録文化財)」などを見ることが出来ます。

三宝寺の隣に「道場寺」(地図⑬)があります。その「道場寺」の角に「道しるべ地蔵」(地図⑭)が立っています。

「道場寺」と「三宝寺」の間の小道を行くと「栗原家長屋門」(地図⑮)に突き当たります。旧家である栗原家の長屋門は明治初期の建築と伝えられています。

「栗原家長屋門」から井草通りに出て南へ坂を下ると石神井図書館があり、その地階が「郷土資料室」(地図⑯)、このコースの終着点です。

四季折々に楽しめるコースです。気軽に歩いてみてはいかがでしょうか。

